

⑤ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑧ 公開特許公報(A) 平1-139360

⑥ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑨ 公開 平成1年(1989)5月31日

B 65 D 77/04

E-8407-5E

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

② 発明の名称 生菓子の包装方法

① 特 願 昭62-289840

③ 出 願 昭62(1987)11月17日

⑦ 発 明 者 中 島 保 則 富山県東砺波郡福野町1633 合資会社中島菓子舖内

④ 出 願 人 合資会社中島菓子舖 富山県東砺波郡福野町1633

⑥ 代 理 人 弁理士 西 幸 雄

明 細 書

1. 発明の名称

生菓子の包装方法

2. 特許請求の範囲

菓子を紙を被(1)と透明カッパ体(6)からなるケース(8)に1個宛収納する生菓子の包装方法において、前記ケースの紙を被(1)の上に脱酸素剤を封入した小袋(3)を添着し、この上に装飾シート(4)を敷いた菓子(5)を載せ、ケースのカッパ体(6)を被せたあと該ケースごと透明プラスチックフィルム製の袋(9)に入れて該袋の口(10)をヒートシールすることを特徴とする、生菓子の包装方法。

3. 発明の詳細な説明

—産業上の利用分野—

この発明は、季節生菓子等の包装方法に関するもので、菓子を1個宛ケースに収納して包装する包装方法に関するものである。

—従来の技術—

菓子の包装方法には種々のものがあるが、特に

季節菓子等の高級生菓子の包装方法として、数巻紙とこれに被覆される透明プラスチック製メツプ紙からなるケースを用い、該ケースに菓子を1個宛収納して包装することが従来から行われている。

一方、菓子の日保ちを良くする目的で脱酸素剤を用いることは従来から知られており、複数個の菓子を収納する密閉可能な紙合巻等の菓子箱の隅に脱酸素剤を封入した小袋を入れたり、該小袋を菓子箱に添着したり(例えば実開昭55-115988号公報参照)している。

—発明が解決しようとする問題点—

季節菓子等の高級生菓子は、高級であり且つ一般家庭で多量消費とするようなものでもないから、1個宛りで販売されるのが普通であり、店頭で1個宛上記ケースに入れて陳列してあるものを包装紙等で包装して販売している。店頭に陳列されている時は、例えば陳列間を掃除すること等によって菓子の鮮度を保つことができるが、一旦販売された後は、菓子が単に1個宛プラスチックケースに収納されているだけであるから、長期に渡って

経度を保持することは困難であり、通常は数日間しか経度を維持することができない。従って、生葉子はそれを必要とする時の直前に購入されるべきならず、購入者にとっては煩雑であり、また購入したものが予定外に死んでしまったときに次の機会まで保存することができないため、直ぐに食べてしまわれかねないという問題があった。

生葉子を包装する際に冷凍で凍が要求した数だけ別々に保冷剤の密閉可能な葉子箱に収納してそれに保冷剤などを入れて販売すれば、葉子が生葉子箱に収納されている限りある程度の期間経度を維持することができるが、このような方法を採用しようとする、葉子生に各種大きさの密閉可能な葉子箱を準備しておく必要があって経済性に問題が生じ、また店舗で保冷クーブ等で葉子箱を凍結する方法では、その密閉性に問題があり、保冷クーブと葉子箱との接触部には大きな隙間が存在しても保冷剤の効力が発揮されなくなる問題がある。

一問題を解決するための手段一

そこでこの発明では、葉子を1個宛収納する密閉ケースの側面を板1の上に取除薬剤を封入した小袋3を添着し、この上に装飾シート(チャーク、グラシン等と呼ばれるもの)を敷いた葉子5を載せ、ケースのトップ体を設けたあと透明プラスチックフィルム製の袋8にケースごと収納して袋8の口10をヒートシールにより密閉することを特徴とする生葉子の包装方法を提案するものである。

一作用一

上記方法によれば、葉子5を簡単に1個宛密封包装することができ、且つその密閉空間内に取除薬剤が封入されるので、葉子5の経度や湿度の低下をある程度の期間防止することができる。そして密封方法としてプラスチックフィルム製の袋8を用いてその袋口10をヒートシールにより密閉する方法を採用しているため、葉子5の密封が完全にできる。また、葉子5の包装はあくまで1個宛の包装であり、ケースの透明トップ体及び透明プラスチックフィルム製の袋8を通して葉子5

を透視することが出来るから、製造現場で上記作業を行っても、店舗における葉子の陳列や販売に支障が生ずることがなく、且つ販売した後の一般消費者での保存や食べる際などにおける取り扱いにも支障がない。

一実施例一

第1図は本発明の方法により包装された葉子の一実施例を示す断面図、第2図ないし第8図は包装手順を示す断面図である。

第2図に示す葉子の栽培ビニル製の敷き板1は、包装しようとする生葉子を1個宛包装する大きさに成形されており、この敷き板1の四隅部に取除薬剤を封入した薄い小袋3を添着剤等で添着する(第3図)。その上に装飾やグラシン等の装飾シート4を敷いた葉子生葉子5を載せる(第4図)、そして保冷剤化ビニル製の透明トップ体6を敷き板1に添着し、生葉子5をケース8に収納する(第5図)。次にケース8ごと透明プラスチックフィルム製の袋8に入れ(第6図)、この袋8の口10をヒートシールして、ケース8ごと密封包装

する(第7図)。

この包装方法によれば、葉子5を収納したケース8を袋8に入れてその袋口10をヒートシールするという簡単な作業で生葉子5を完全に密封包装することができる。しかも収納された生葉子5は保冷剤化ビニル製の透明トップ体6で保護され、更にこれを封入した袋8が透明プラスチックフィルムからなるものであるから、外観が上品で葉子の形状を損ねることがなく、取り扱い中に生葉子の形状が崩れることがない。そして葉子5を1個宛収納するケース8内に取除薬剤が封入されるので、葉子の経度がある程度の期間維持され、1個宛の取り扱いにも支障がない。

一発明の効果一

上記この発明の方法によれば、経度の落ちる生葉子5を完全に密封包装することができ、この密閉空間内で取除薬剤により経度が保たれるので、従来通り同じく保存できなかった高級生葉子などをある程度の長期間保存することが可能となり、1個宛の包装、販売、保存等の取り扱いにも支障

がなく、粒子の外形が保護でもなくなるといふ問題を生じず、包装材料も簡単に且つそれに適する材料も安価で済むという効果がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

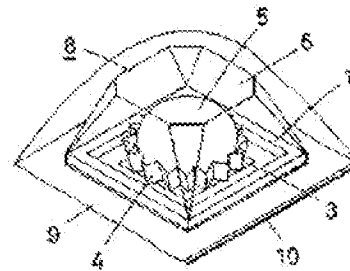
第1図はこの発明方法により包装された粒子の一実施例を示す斜視図、第2図ないし第5図は本発明の包装方法を示した斜視図である。

図中、

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1: 敷き板         | 3: 包装材料入り小袋 |
| 4: 装飾シート       | 5: 粒子       |
| 6: 透明カップ体      | 8: ケース      |
| 9: 透明プラスチック製の袋 |             |
| 10: 袋口         |             |

代理人 弁理士 西 孝雄

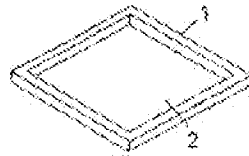
第1図



- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1: 敷き板         | 3: 包装材料入り小袋 |
| 4: 装飾シート       | 5: 粒子       |
| 6: 透明カップ体      | 8: ケース      |
| 9: 透明プラスチック製の袋 |             |
| 10: 袋口         |             |

7

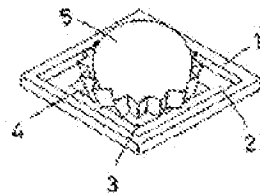
第2図



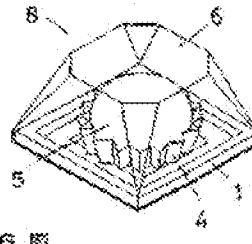
第3図



第4図



第5図



第6図

